

# 第3回国連防災世界会議2015仙台 滞在記



仙台駅のロビーに飾られた国際会議のタペストリー

第3回国連防災世界会議は3月14日から18日までの5日間、仙台市を中心に開催された。延べ4万人の参加者を想定して、ホスト役の仙台市や東北大学は以前から入念な準備を進めてきており、会期中の仙台駅と駅前から続く商店街、さらにイベント会場となる勾当台公園などは正にお祭り気分満ちていた。

# GEMオープンクエイクとアジアの地震リスク評価シンポジウム



IRIDeS  
NIED  
GEM  
OYO  
の4者共催

キーワードは  
**PSHA**

**Probabilistic  
Seismic Hazard  
Analysis**



国連防災世界会議の始まる前日の午後にIRIDeSで開催された“Powering Asian organizations with GEM’s Open-Quake tools: assessing earthquake risk collaboratively” (GEMオープンクエイクとアジアの地震リスク評価)というシンポジウムに参加した。これは東北大学災害科学国際研究所(IRIDeS)が文科省防災科学技術研究所(NIED)・国際研究組織GEM(Global Earthquake Model)・OYO(民間のコンサルタント)と協力して開催したもので、地震リスク評価手法を共有するために地震観測・解析手法についての情報交流を行っており、PSHA(Probabilistic Seismic Hazard Analysis, 確率論的地震ハザード解析)のための手法開発が最重要のキーワードとなっていた。

# 仙台駅に近い丸善の特設コーナー

書店入口には国連防災世界会議のポスターと共に3.11  
震災・復興・防災に関係した書籍が集められていた。

INFORMATION

第3回国連防災世界会議  
2015 仙台  
3.14(Sat) - 18(Wed)



震災の教訓

復興への歩み

防災



社×MARUZEN仙台7エル店  
—いのちと地域を守る—  
3.11 震災・復興・防災